

# 「いつ行っても良かった津南へ」

## — 雪の結婚式からはじまる白銀の舞台 —

日本大学法学部政治経済学科 岩崎正洋ゼミナール

担当教員：岩崎正洋

代表者：寺井尚輝

発表者：小島佑介、島田直弥、橋本悠佑

参加者：岩崎万由、加藤有里子、川村麻実、木戸理紗、柴優太郎、

曾根瑠太郎、長安良平、名雲千夏、早坂健太

### 梗概

津南町は消滅可能性都市のひとつに挙げられるほど、人口減少が継続的に起こっている地域である。原因のひとつとして考えられるのは、本フォーラムのテーマの「雪」である<sup>1</sup>。やっかいなものとして捉えられ、津南町から人を遠ざけてきた「雪」を交流人口の増加につなげることができれば、津南町が抱える問題のひとつである人口減少の解決のための一手となり、「雪のおかげ」というイメージに転換することができるのではないだろうか。

私たちは、具体的には「人」を中心としたまちおこしイベントとして、「雪」を活用した結婚式と結婚式に関連した雪のジオパークの活用方法を提案する。「雪の結婚式」では津南町の誇る壮大な雪景色を背景に、新郎・新婦の心に響く、記憶に残る結婚式をプロデュースする。結婚式のコンセプトを「白いキャンバス」とし、津南町から新たな人生を歩み始める出発点とするというメッセージを込めたものにする。結婚式と関連させた雪のジオパークの活用方法では、招待客がジオパークを巡ることで、津南町の自然を体験できる引き出物を提案する。引き出物を「モノ」ではなく、「体験」にすることは、何のものにも代え難い他とは違った特別な「価値」を生み出すことになり、津南という町の良さを多くの人々に伝えたり、印象づけたりすることができる。

私たちが提案する「雪の結婚式」と引き出物としての「雪のジオパーク」のプロデュースによって、新郎・新婦が数年後に、家族を連れて再度、津南町を訪れ、招待客が結婚式を通して津南町というまちの存在を知り、さらには自然を感じることでできるジオパークを知ってもらう、ということが期待できる。このように、津南町における交流人口の増加を図るとともに、「雪」を結婚式という幸せなイメージと掛け合わせることで「幸せの象徴」として印象付けることができると考える。

---

<sup>1</sup> 「広報つなん平成 28 年 5 月 20 日 No. 659」

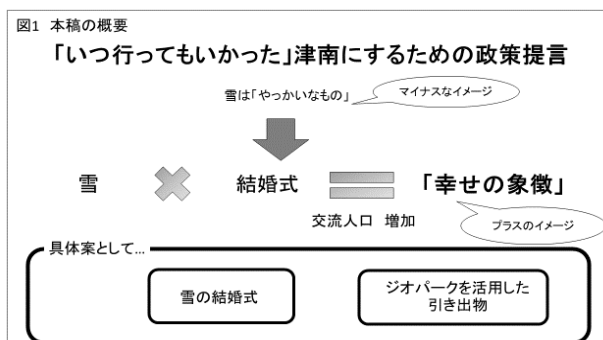
## 1. はじめに

総務省が人口減少元年と定めた 2008 年から現在に至るまで、継続的な人口減少は各地の消滅可能性都市の過疎化に拍車をかけている。消滅可能性都市として挙げられた自治体数は全国約 1,800 市町村のほぼ半数を占める 896 にも及び、消滅への危機感として強烈な衝撃を残した<sup>2</sup>。安倍首相は 2014 年の臨時国会を「地方創生国会」と位置づけた。それを受け、現在では、地方独自の取り組みが全国的に注目されている。各自治体はそれぞれの特色を活かしてまちを盛り上げる取り組みを行っているのである。

津南町の最大の特色は「自然」ではないだろうか。私たちは、本フォーラムのテーマである「みんな雪のおかげ」とするために、雪を「やっかいなもの」から「幸せの象徴」へとイメージ転換することが重要であると考えた。そこで、新たに雪を活用した魅力を創出することで津南町を知り、足を運んでもらうきっかけをつくり「いつ行っても良かった」と思える政策提言をしていきたい。

2015 年度の観光入込状況<sup>3</sup>をみると、最も多く人を引き寄せている観光資源は、夏場の自然景観であることがわかる。しかし夏場には雄大な自然を目的に、多くの人々が津南町を訪れているが、冬場の観光客数は激減している。その主な原因は雪であると考えられる。数多くの遺跡や特徴的な地形などが雪で埋もれ、自然の魅力を感じられなくなってしまうからである。そこで、雪によって消失した自然の魅力を、新たに雪を活用していくことで、冬場も津南町の魅力を発信していきたい。冬にも魅力があることを発信していくことができれば、交流人口の増加につながり、「やっかいな雪」から「雪のおかげ」へと雪のイメージを転換することが期待できる。

新たな雪の魅力の発信として私たちが提案するのが「雪の結婚式」である。雪の結婚式をプロデュースすることは、「幸せの象徴」として津南町の「雪」のイメージを転換することにつながり、本テーマとも合致することになる。さらに結婚式の引き出物として津南の魅力のひとつであるジオパークを活用した体験型のものを提案する。体験は何ものにも代え難い「価値」を提供することができる。そのため、新郎・新婦が招待客に「モノ」ではなく、「体験」をプレゼントするというラインナップをつくり、今までにない「ワクワク」する体験を引き出物とする。招待客にもさまざまな思い出をつくることのできる「体験」を用意し、多くの人に津南町の雪と自然の魅力を知ってもらうのである。そして招待客には「私たちも自然豊かな津南町でこのような結婚式を



<sup>2</sup> 日本創生会議「日本創生会議 HP」<http://www.policycouncil.jp/> (2016年8月10日閲覧)

<sup>3</sup> 津南町提供資料「平成 27 年度津南町観光入込状況」 (2016年9月10日閲覧)

挙げてみたい。また津南町に来てみたい」と思ってもらい、津南町に再び来てもらえることが期待できる。

本論では「みんな雪のおかげ」という題に対し、交流人口の増加と「雪」のイメージ転換に寄与することを前提に、雪の結婚式とジオパークの活用方法を具体的に提案していく。

## 2. 津南ならではの結婚式

### 2-1. 現状

津南町で結婚式を挙げるイメージは薄いのではないだろうか。そこで私たちは「雪といえど津南、結婚式を挙げるなら津南」をコンセプトに雪を活用した取り組みのひとつとして、ジオパークでの幻想的な結婚式を提案する。

津南町の生活や結婚に関する現状は以下の通りである。津南町の人口の約 4 割弱を高齢者人口が占める一方で、若年者人口は 1 割に満たない<sup>4</sup>。すなわち超高齢社会となっている。津南町の婚姻届の受付数は 2012 年度が 34 件、2013 年度が 40 件、2014 年度が 46 件、2015 年度が 39 件となっている<sup>5</sup>。また現在年間を通じて、津南町で結婚式を挙げている場所はニュー・グリーンピア津南のみである。さらに年間で結婚式を挙げる組は 1~2 組ほどが現状であり<sup>6</sup>、町外からの利用はほぼない。また結婚式場としては町内ではなく、近隣の十日町市や長岡市、湯沢町などで結婚式を挙げるカップルが増えてきている。近年では、夏祭りの時期にひまわりウェディングが実施されている。新潟市の国際ホテル・ブライダル専門学校と津南町がタイアップすることで実現し、50 万本のひまわりが結婚式を飾る<sup>7</sup>。

このような現状を踏まえ、「みんな雪のおかげ」というテーマに対し、私たちは津南町の雪を活かした「雪の結婚式」を提案する。冬や雪に関連した結婚式は満足度が高く、海外に目を向けると、スウェーデン<sup>8</sup>やカナダ<sup>9</sup>では通年営業のホテルとプラスして、冬季限定のほとんどが雪と氷だけで造られるアイスホテルがいくつか存在し、そこではアイスチャペルと呼ばれる氷の教会が建設されている。そこでは毎年世界中から約 150 組のカップルが結婚式を挙げており、近年は現地を訪れて結婚式を挙げる日本人カップルも増えている。また日本において北海道の星野リゾートトマムではマイナス 30℃の寒さを活用して氷の教会をつくり、花火やバブルシャワーなどさまざまな演出を盛り込んだウェディングプランが組まれており、日本中の多くのカップルから支持を得ている。私たちは、津南町で行う雪の結婚式は豪華な

<sup>4</sup> 津南町税務町民課「平成 28 年度 8 月末年齢別住基人口」

<http://www.town.tsunan.niigata.jp/uploaded/attachment/1933.pdf> (2016 年 9 月 14 日閲覧)

<sup>5</sup> 津南町総務課のヒヤリングに基づく(2016 年 8 月 10 日)。

<sup>6</sup> 津南町総務課のヒヤリングに基づく(2016 年 8 月 10 日)。

<sup>7</sup> ひまわりウェディング 津南町ホームページ <http://www.town.tsunan.niigata.jp/site/kanko/himawari-wedding.html> (2016 年 9 月 18 日閲覧)

<sup>8</sup> ICEHOTEL Jukkasjarvi <http://www.icehotel.com/> (2016 年 9 月 14 日閲覧)

<sup>9</sup> Hotel de Glace <http://www.hoteldeglace-canada.com/> (2016 年 9 月 14 日閲覧)

セットというよりも、新郎・新婦の心に届き、記憶に残るような結婚式を提案しなければならないと考える。そのためには結婚式における豪華なセットではなく、津南町の大地と雪に育まれた自然と歴史文化を組み込んだプランとしたい<sup>10</sup>。

私たちが提案する雪の結婚式のコンセプトは「白いキャンバス」である。このコンセプトにはふたつの意味が込められている。第一に、津南町が誇る壮大な雪によって、幻想的な真っ白な世界をつくり出し、そこで結婚式を行うことを意味する。第二に、この日から夫婦となる真っ白な状態、すなわち 0 の状態を意味する。そのようなふたりにとって、津南町が新たな人生を歩み始める出発点となるというメッセージを込めている。つまり、雪の結婚式によってふたりの「白いキャンバス」にさまざまな色彩の色付けを行っていくことをコンセプトとしている。雪の結婚式を行うことによって、結婚式を挙げた夫婦に感動や満足を実感してもらい、さらに日本有数の豪雪地帯である津南町の雪を「幸せの象徴」として発信したい。この幻想的な結婚式をきっかけに津南町を広く知ってもらい、津南町を多くのカップルや家族の憧れの場所にする 것도目的としている。

## 2-2. 挙式

一般的な挙式では、新郎・新婦の父母及び親族の前で結婚の誓いを立てることが多く、さまざまなコンテンツから挙式が構成されている。しかし、津南町での挙式では自然の雄大さを活かしたシンプルな挙式とするため、出席者は新郎・新婦のふたりを主とし、コンテンツも①新郎・新婦入場、②指輪交換、③誓いのキス、④結婚宣言、⑤新郎・新婦退場の 5 つから構成する。一見、物足りない挙式になるのではないかと不安に感じるかもしれないが、このシンプルな挙式にはとても大切な意味が込められている。

冬の時期にしんと降り積った雪から造られる真っ白な白銀の世界の中へふたりが入場してくる。この真っ白な白銀の世界の中には新郎・新婦ふたりの色しか存在しない。これは、ふたりのこれからの人生、つまり、この挙式がふたりの新しい人生の始まりといえる。この挙式を経て、新しくふたりの人生がスタートする。これから歩いていくふたりの人生、楽しいこと、辛いこと、悲しいこと、うれしいこと、色々なことがある。これらのさまざまな出来事のひとつひとつがふたりの人生の大切な色であることは言うまでもない。もちろん、ふたりが関わってきた友人や知人もふたりの人生において、大切な色であることは忘れてはならない。真っ白な白銀の世界をこれからの新郎・新婦の人生の楽しい思い出や嬉しい思い出、悲しい思い出といった、さまざまな思い出という色で彩っていく。「白いキャンバス」から新郎・新婦の第二の人生をスタートさせ、ふたりの手によって、このキャンバス・人生に思い出という色を描き、彩っていくことによって、この先も忘れることのできない、通常の挙式とは異なった特別な体験を提供することができる。

---

<sup>10</sup> 苗場山麓ジオパーク <http://naeba-geo.jpn.org/page/4> (2016年9月18日閲覧)

このように、挙式をするシチュエーションや世界観、そのひとつひとつに意味を持たせることは、一瞬一瞬を大切にし、一生忘れられない結婚式、ふたりの人生がここから始まるという意味に繋がる。「白いキャンバス」をコンセプトとし、ふたりをメインにした挙式は、今後の新郎新婦の人生の中でも振り返るたびに、特別な思い出として、一生忘れることのできない挙式になるのではないだろうか。このような結婚式は、他の一般的な挙式会場では表現することのできない世界観を、津南町の「雪」で表現し、津南町でしか味わうことのできない挙式となる。

### 2-3. 披露宴

雪の結婚式の演出として、真っ白な雪のスクリーンに映像を投影し、津南町の自然を活かしたコンテンツを提案していく。真っ白な白銀の世界に、新郎新婦の「過去」を投影し、ふたりの思い出や、新郎新婦それぞれのこれまでを振り返る「思い出」という色を、「白いキャンバス」に描いていく。通常は屋内でのスライドショーなどが一般的ではあるが、屋外につくられた雪のスクリーンに映像を投影するというのは、他ではあまり体験することができない。いわば、津南町ならではの「スペシャルコンテンツ」としてアピールすることができる。屋外で行う幻想的な白銀の世界の中で、雪のスクリーンに映し出される「過去」は、より一層新郎・新婦の思い出に華を添えることになるだろう。このようなスペシャルコンテンツは新郎・新婦のみならず、招待客にも強いインパクトを残すことができる。また雪のスクリーンに映像を投影するという試みは、国内でも実施されている数は少ないことから、県内外へ津南町をアピールすることにつながる取り組みのひとつとして考えることができる。

また、近年結婚式の演出にスカイランタンを選ぶことができる式場が増えている。津南町の雪祭りでは毎年多くのスカイランタンを打ち上げており、それを目当てに津南町を訪れる若者や女性客も多い<sup>11</sup>。そこで私たちは、結婚式の演出としてスカイランタンの使用を提案する。雪の結婚式のコンセプトは「白いキャンバス」であり、色を付けていくためのひとつとして、スカイランタンの打ち上げを取り入れる。スカイランタンの打ち上げには、新郎・新婦の幸せを願うという意味合いを持たせる。それにより会場の一体感を強め、より幻想的で幸せな世界をつくり出すことができる。また、スカイランタンの打ち上げは結婚式の招待客だけに限らず、津南町を訪れた観光客にも行ってもらう。観光客それぞれがスカイランタンに灯す色を決め、打ち上げることにより新郎・新婦の幸せを願い、「白いキャンバス」に色を付けることとなる。それは新郎・新婦の未来を映し出すという演出となる。観光客はスカイランタンを楽しみながら、新郎・新婦をスカイランタンによってサプライズで祝福するこ

<sup>11</sup>津南町総務課のヒヤリングに基づく(2016年8月10日)。

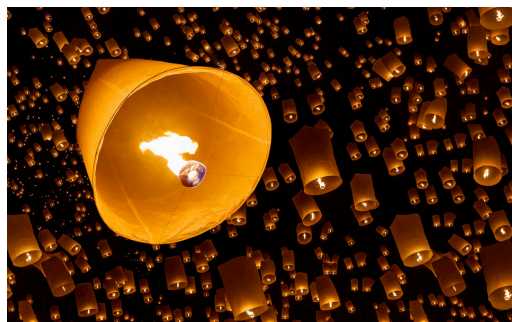
津南町観光協会公式サイト「津南彩発見」第40回津南雪まつり [http://www.tsunan.info/page\\_matsuri-event/details.php?main=7&no=1238566336](http://www.tsunan.info/page_matsuri-event/details.php?main=7&no=1238566336) (2016年9月18日閲覧)

とができるのである。津南町を訪れた観光客や町民にも協力してもらい、祝ってもらうことで一体感のある結婚式を行う。

雪のスクリーンとスカイランタンというふたつのスペシャルコンテンツを取り入れることによって、通常とはまるで異なった結婚式を挙げるができる。さらに新郎・新婦のみならず、招待客や観光客にもインパクトを与えることができる。

#### 2-4. シンボリックデコレーション

雪の結婚式のシンボリックデコレーションとして、温かみがありシンプルかつ雪の景色に溶け込みやすいキャンドルを利用し、式に華を添える<sup>12</sup>。結婚式や披露宴では、シンボリックデコレーションと呼ばれるコンセプトに合った空間装飾を施す演出が増えてきている。先行事例として、北海道小樽市では「小樽雪あかりの路<sup>13</sup>」というキャンドルの灯火が古い町並みを優しく照らす、幻想的なイベントが実施されている。辺りが真っ暗になる時間には、幻想的な雪の世界に無数のスノーキャンドルを並べることで光の道をつくり出し、毎年多くの観光客で賑わっている。またスノーキャンドルは安価で、作り方もとてもシンプルである。津南町で行う雪の結婚式では、キャンドルの光が美しく映える夕暮れの時間に、屋外にスノーキャンドルを並べ光の道をつくり出す。その明るく灯された光の道を新郎・新婦が歩き、参列者はその歩くふたりの背中を見つめながら送り出す。さらに雪のスクリーンを交え、ふたりの映像を映し出し、津南町が誇る広大な自然の中でふたりを祝福する。そしてクライマックスには招待客だけでなく、町民・観光客と共にスカイランタンで華を咲かせ、式を締めくくる。



出所：© 2015 ForWallpaper.com

### 3. ジオパーク活用方法について

#### 3-1. 引き出物としてのジオパーク活用方法

津南町の雪と自然を最大限活かした結婚式には、津南町の雪と自然を最大限活かした引き出物も必要である。披露宴への招待客にも、津南町の雪と自然を体感できる引き出物を提案する。

かつて「引き出物」は披露宴で用意された料理の一部を招待客の家で待つ家族への手土産として持ち帰るためのものだったが、現在は、どの招待客にも一律に渡される「記念品」としての意味合いが強くなっている<sup>14</sup>。現在最も多く引き出物として選ばれているのが、カタロ

<sup>12</sup> ForWallpaper <http://jp.forwallpaper.com/wallpaper/night-sky-sky-lanterns-fire-many-107452.html>

<sup>13</sup> 小樽雪あかりの路 OFFICIAL WEBSITE <http://yukiakarinomichi.org/> (2016年9月14日閲覧)

<sup>14</sup> ゼクシィ「ゲストに喜ばれる引出物・プチギフトランキング」<http://zexy.net/contents/bridge/gift/>

グギフトである。新郎新婦が選んだ引き出物は、必ずしも招待客の趣味に合わないという事もあり、その点でカタログギフトは招待客に選択を委ねることができるため人気となっている。津南町で行う雪の結婚式という、他とは違う特別なプログラムを行うならば、引き出物も津南町らしさの詰まったものにすれば、より魅力的な結婚式になるのではないだろうか。津南町で結婚式を挙げるならば、引き出物はただの品物ではなく、津南町の魅力を知ってもらえるものを提案したい。そこで私たちが考えたのが「冬のジオパークや名産品を使った津南町でしかできない体験の提供」と「津南町の食を楽しむことができる」というふたつの引き出物をカタログ形式にし招待客自身に選択してもらおうというものである。

津南町には自然や文化財が豊富に存在し<sup>15</sup>、町全体が長野県栄村とともに苗場山麓ジオパークに認定されている<sup>16</sup>。地球が長い年月をかけてつくりあげた河岸段丘や、国の重要文化財に指定された土器が発掘された遺跡のほか「ワクワク」できる体験が多くのある場所である。

### 3-2. 引き出物の中身

津南町を五感で楽しんでもらうためには、カタログから選ぶ形式とする。具体的な内容としては、ジオパーク内でのトレッキングや地酒を利用した体験と津南の米や野菜を存分に味わうことのできる内容をカタログに盛り込む。

ジオパーク内でのトレッキングとは、冬季ジオパークでスノーシュー<sup>17</sup>を活用したトレッキングツアーである。普段使われている遊歩道は冬季、積雪によって姿を隠す。そのため冬季はスノーシューを使って自由に辺りを散策し、津南町の自然環境を自分の足で歩いて感じることができる。コースは、津南町の見どころの中でも人気が高い、龍ヶ窪をめぐるツアーである。自然豊かな津南町では、エサを求めて木の皮をはいたり、新芽を探したりするキツネやウサギなどの足跡を探したり、冬だからこそ感じることのできる森の営みを観察するアニマルトラッキングもできる。また雪の中での息抜きとして、ホットランチを取り入れる。たくさんの雪が溶けて大地にしみ込み、長い年月をかけて地中でろ過され湧水が出る龍ヶ窪で、温かい飲み物や雪下ニンジンなど雪の下で寝かすことで甘みが増す野菜を使ったスープを食べるなど、参加者が雪国ならではの食文化に触れられる機会を設ける。スノーシューを活用したトレッキングツアーによって、雪国独特な文化を体験し、津南町でしかできない「ワクワク」する体験を招待客にもしてもらえる。

もうひとつの具体案として、津南町の地酒を利用した体験を挙げる。津南町の地元農家で栽培された酒米でつくられた地酒を飲むだけでなく、お酒を使用した化粧水や石鹸をつくる体験を行う。日本酒にはアミノ酸やフルーツ酸などが含まれており、美容にも効果がある

---

(2016年8月31日閲覧)

<sup>15</sup> 津南町教育委員会「津南町文化財データベース」 <http://tsunan-bunka.com/> (2016年8月24日閲覧)

<sup>16</sup> 苗場山麓ジオパーク <http://naeba-geo.jp/> (2016年8月23日閲覧)

<sup>17</sup> そとあそびアウトレジャー <http://sotoasobi.net/activity/snowshoeing> (2016年8月23日閲覧)

といわれている<sup>18</sup>。女性をターゲットの中心とし、化粧品をつくるという他ではできない体験を提供する。津南町の地酒を使った化粧水や石鹸をつくる体験をすることで、津南町の名産品に触れることができる。

スノーシューを活用したトレッキングツアーによって、雪国独特な文化を肌で感じ、津南町の地酒を利用した化粧水や石鹸をつくる体験によって、津南町の名産品に触れられる機会を提供する。招待客には津南町でしかできない体験をしてもらう。

また、「舌」を使った体験もカタログから選択する引き出物のひとつとして提案する。津南町は豪雪地帯であると同時に米どころであり、質の高い米や野菜、綺麗な水が津南町の大きな魅力である。津南町の「食」の魅力が詰まったセットを選択できるようにすることで、「米を買うなら津南産」などといったイメージを定着させることを狙う。同時に、東京や首都圏の新潟県のアンテナショップでの売り上げ増加も期待できる。

体験は何ものにも代え難い「価値」がある。「モノ」ではなく「体験」をプレゼントするというラインナップをつくり、今までにない「ワクワク」する体験を引き出物とする。招待客の中には、結婚式のために初めて津南町を訪れるという人もいるだろう。新郎・新婦が式を挙げる場所として選んだ津南町がどういった場所であるのか、津南町の水や空気、美しい風景、雪景色、人のあたたかさなどを引き出物によって知ってもらう。津南町には見どころや美味しいものも多くあり、その魅力を知ってもらうきっかけをつくることによって、招待客にとって「いつ行っても良かった」津南町を見つけてもらうことができるだろう。また結婚式を挙げた夫婦が思い出の地として何度も津南町に足を踏み入れ、魅力を多く知ってもらい広めていくことも、交流人口の増加に繋がっていくと考える。

#### 4. 費用

結婚式にかかる主な費用は、会場・演出費用、二人の思い出を振り返るための雪のスクリーンの設置費用、結婚式のシンボリックデコレーションであるキャンドルを使った光の道やスカイランタンの費用、その他の費用としてドレスのレンタル代が挙げられる。

披露宴の会場費は、現時点でニュー・グリーンピア津南に二つのプランが用意されている<sup>19</sup>。ひとつ目は「SWEET SPECIAL PLAN」である。このプランの料金は50名で800,000円である。料金には懐石料理、メイン飾花、卓上花、贈呈用花束、会場演出料が含まれている。その他に新郎・新婦の特別室宿泊・オリジナル記念品が特典として付いてくる。ふたつ目のプランは「SWEET CASUAL PLAN」である。料金は50名で500,000円である。料金には料理(バイキング)、飲物(フリードリンク)、メイン飾花が含まれている。特典には「SWEET SPECIAL PLAN」と同様に新郎・新婦の特別室宿泊・オリジナル記念品が付いてくる。また、コンテンツである雪のスクリーンやスカイランタン、キャンドルによる光の道における費用は、その大きさ

<sup>18</sup> KLAND <http://kurand.jp/blog/2014/02/18/sake-toner-lotion-keshosui/#midashi1> (2016年9月17日閲覧)

<sup>19</sup> ニュー・グリーンピア津南 [http://www.new-greenpia.com/wedding\\_top](http://www.new-greenpia.com/wedding_top) (2016年9月7日閲覧)



や演出の規模に左右されることから、一概に幾らということとはできない。想定される額としては、運搬から設置を通して、雪のスクリーンでは 50,000～100,000 円、スカイランタンでは 100,000 円<sup>20</sup>、光の道では数万円ほど、その他照明や音響等で 100,000 円前後と考える。そして、ドレスのレンタル代は、平均相場に屋外でも行うことを加味して 350,000 円前後かかると想定される。以上を総合して、この結婚式にかかる費用は、600,000～650,000 円程度であると想定される<sup>21</sup>。

## 5. 再び訪れたくなるまち・津南へ ～まとめにかえて～

今回、私たちは「やっかいもの」と思われている雪を「雪のおかげ」へとイメージ転換するために、雪を「幸せの象徴」として位置づけるための提案を行った。津南町でしか味わえない幻想的な白銀の世界を、ふたりの色で染め、まち全体から祝福される特別な結婚式、すなわち、「雪の結婚式」は津南町の壮大な自然とやっかいものと思われている多くの雪を生かしてつくり出され、観光客が雪により大きく減少する冬の津南町にとって新たな魅力になるのではないだろうか。結婚式をひとつのきっかけとして、さまざまな人に津南町に足を踏み入れてもらい、津南町を憧れの場所、雪は幸せの象徴というプラスのイメージを広めていく。

結婚式で終わりではなく、引き出物としてジオパークを巡ることで津南町の自然や食を体で感じてもらい、津南町の魅力を一度で多くの人に伝えていくことができる。結婚という人生で特別な経験をした津南町という場所に、新郎・新婦や招待客が数年後、数十年後に家族を連れて、再び訪れることも期待できる。

雪の結婚式とジオパークを利用した引き出物の提案は、雪というこれまではマイナスであった要因を、強みに変えるひとつのきっかけになる。同時に、『みんな雪のおかげ』と感じ、雪の素晴らしさを再確認することもできる。このように、私たちの提案は結婚式を通して、初めて津南町を訪れた人にも結婚式から始まる白銀の舞台で「いつ行っても良かった津南」を実現することになるのである。

### 《主要参考文献》

- ・北里敏明『地域づくりと地域振興』ぎょうせい、2003年。
- ・小西砂千夫、松木茂弘『実務から読み解く地方財政入門』学陽書房、2013年。
- ・坂本忠次『分権時代のまちづくり：足もとを掘れ、そこに泉が湧く』大学教育出版、2000年。
- ・人文社観光と旅編集部『新潟県 郷土資料事典 観光と旅』人文社、1983年。
- ・日本地方自治学会『公共事業と地方自治』敬文堂、2000年。

<sup>20</sup> スカイランタンで故郷の空に光を！あかりプロジェクト <https://camp-fire.jp/projects/view/1369>

<sup>21</sup> みんなのウェディング <http://www.mwed.jp/jyuku/categ11/lecture433/> (2016年9月7日閲覧)

- ・橋本行史『地方創生の理論と実践：地域活性化システム論』創成社、2015年。
- ・山田昌弘『結婚の社会学 未婚化・晩婚化はつづくのか』丸善ライブラリー、1996年。
- ・湯浅利夫『地域振興の戦略的展開』ぎょうせい、1995年。